



英語教育改革 最新情報

始まった小学英语

2020年度から始まる次期学習指導要領では大きな改革が行われます。とりわけ影響が大きいのは小学英语。小学校では2018年4月から移行措置が始まりました。

目指す英単語レベルは600～700語

次期学習指導要領の英語において一番の特徴は、学ぶ英単語数の多さです。小学校で600～700語、さらに中学校で1,600～1,800語を学び、中学校卒業までに2,200～2,500語を身につけることを目指します。これは、現在中学校で学ぶ1,200語と比べて倍の数になります。

使える英語を目指すなら、学ぶ単語数が増えるのは必然ともいえます。子どもたちの語彙をどうやって増やすかは、今後の指導の大きなポイントになるでしょう。

2020年度～	
「何ができるようになるか」という観点から、小・中・高等学校を通じた5つの領域（「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」）別の目標を設定	
中学校	<p>年間140単位時間（週4コマ程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> 互いの考えや気持ちなどを外国語で伝え合う対話的な活動を重視 具体的な課題を設定するなどして、学習した語彙、表現などを実際に活用する言語活動を充実 授業は外国語で行うことを基本とする <p>中学校で1,600～1,800語程度</p>
小学校	<p>5・6年（教科型） 年間70単位時間（週2コマ程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> 段階的に「読むこと」「書くこと」を加える 指導の系統性を確保（15分程度の短時間学習の活用等を含めた弾力的な時間割編成も可能） <p>小学校で600～700語程度</p>
	<p>3・4年（活動型） 年間35単位時間（週1コマ程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「聞くこと」「話すこと（やり取り・発表）」を中心とする 外国語に慣れ親しませ、学習への動機付けを高める

およそ3校に1校が70コマで実施

5・6年生の場合、移行措置期間中の授業は新学習指導要領対応教材『We Can!』を使用、または昨年まで任意で使用されていた『Hi, friends!』を併用して各学年50コマ以上実施すればよいとされており、教材やコマ数は自治体の判断に任されています。

文部科学省が2018年度の各自治体の決定をまとめたところ、年間50コマの自治体は63%、70コマは28%という結果になりました。つまり、全国の小学校のおよそ3校に1校が正

規の70コマで先行実施を始めているのです。中には、さいたま市の年間105コマのように正規以上の実施をしている自治体もあります。

さらに、2019年度に70コマの実施を予定している小学校は42%にのぼります。今後、生徒や保護者の英語学習へのニーズが高まることは間違いのないでしょう。

新学習指導要領対応教材『We Can!』

『We Can!』は、アクティビティによる授業を前提とした教材で、文字がほとんどないことが特徴です。リスニングとスピーキングが重視されており、紙面上は一見簡単そうに見えますが、現中1の教科書をはるかにしのぐ量の表現を聞いたり話したりします。

例えば、自己紹介を含む長い会話を聞き、「〇〇くんはハンバーグが好き、レタスが嫌い、バスケットが好き」と、内容を理解して答えを書く問いなどがあります。文法も、SV、SVC、SVO、5W1Hなど、現中1で学ぶ内容はすべて入っていると考えて間違いありません。しかも、その文法の理屈を指導することなく、聞き取りの中でルールに気づかせていくのです。

楽しいだけの英語学習に後悔

アクティビティ主体のため、授業中は楽しく理解できたとしても、そこから知識を定着させるのは難しいものです。新教材には解説がなくノートも取りませんから、学んだ内容の復習もできません。

小学英语だから楽しく学べるほうがいいという方もいるでしょう。しかし、中学にあがり定期テストでなかなか点数が取れなくなると、それまで好きで得意だと思っていた英語が苦手になる子どもが大勢いるのが現状です。やはり英語学習においてライティングとリーディングは欠かせないものであり、学習塾のフォローが求められるでしょう。例えば、膨大な数の単語をすべて覚えさせるのではなく、重要な単語だけでも使いこなせるようにさせる。そうした実用的な指導が必要になってくるのだと思います。（教材編集長 上野伸二）

編集長の

ここですよ
ポイント

- 小5、6の英語指導を週2コマ（年間70コマ）実施する自治体は2018年度：28% → 2019年度：42%にアップ!
- ライティングとリーディングは重要ポイントをフォロー。聞いて分かればよい単語、書ける・使いこなすべき単語は区別して指導。